

福島県における子宮頸がん検診の実施状況
～若齢者の現状について～

○佐藤奈美¹⁾、野口真貴¹⁾、荒木由佳理¹⁾
栗田和香子¹⁾、寅磐亮子¹⁾、塚原孝¹⁾、
佐藤美賀子¹⁾、神尾淳子¹⁾、菅野薫¹⁾、
森村豊²⁾、藤森敬也³⁾、鈴木仁¹⁾

1) 公益財団法人福島県保健衛生協会

2) 北福島医療センター婦人科

3) 公立大学法人福島県立医科大学産科婦人科学講座

【目的】若齢者の子宮頸がんが近年増加傾向にあるため、国は2004年に隔年検診および検診開始年齢の20歳への引き下げを、2009年から無料クーポン券の発行を行ってきた。私達は今回、福島県の若齢者層における子宮頸がん検診の受診状況を明らかにすることを目的とした。

【対象および方法】 1) 1978年から35年間に当協会で実施した延べ3,490,626人の受診者数の年次推移をまとめた。

2) 1997～2011年の15年間の受診者、延べ1,318,425人について要精検率、がん発見率、がんの進行期、および精密検査受診状況を調査し、若齢者20~44歳の動向について検討した。

【結果】 1) 全受診者数は1986年の128,507人をピークに漸減し、隔年検診に移行した2006年には67,062人まで減じた。2009年の無料クーポン券の発行開始以降、受診者数は微増したが2012年の対象人口に対する受診率は26.2%と低かった。若齢者の全受診者に対する割合はピーク時の40%から25%にまで低下したが、無料クーポン券の発行後は39%まで回復した。しかし、2012年の若齢者の受診者数29,357人は、ピーク時である1986年の51,307人に比して約60%を占めているにすぎなかつ

た。

2) 最近 15 年間の全要精検率は、0.5～1.1%で推移していたが、若齢者に限ると0.8～1.7%と高かった。がん発見率は、全体では0.06～0.15%、若齢者では0.11～0.33%と高率であった。がんの進行期別にみると、早期がんである上皮内癌が若齢者の64%を占めていた。また、要精検と判定され受診した率は90.4～96.2%で推移していたが、例年、精検経過途中で中断する者が20～30%いた。特に無料クーポン券の発行以降は、精検未受診者や精密検査中断者の80%が若齢者であった。

【まとめ】福島県で子宮頸がん検診を受けた若齢者では、全年齢層の中でも要精検率およびがん発見率が高く、上皮内がんが高率に発見されていた。若齢者の受診数は、無料クーポン券の発行により一時的に増加したが、国が目標としている受診率50%にははるかに届かず、要精検と判定されても精密検査を受診

しなかつたり、受診しても経過中に中断して
しまう例が増加傾向にある。

以上より、がんリスクの高い年齢層に対す
る積極的受診勧奨や要精検者への精密検査受
診要請の重要性を再認識し、細やかな事後管
理が肝要と考えられた。